

平成28年度 宮城県栄養士会 生涯教育 研修会報告

講義 必須1単位 2 2-3

根拠に基づいた栄養管理（2）

講師 東北医科薬科大学病院 栄養管理部 係長 早坂 朋恵氏

平成28年8月7日 仙台市宮城野区榴ヶ岡のアゼリアヒルズ17F アゼリアホールにて今年度 第1回目の生涯教育研修会が開催されました。

今回は 東北医科薬科大学病院 栄養管理部 係長 早坂 朋恵氏より根拠に基づいた栄養管理について講義をしていただきました。今年度初めての生涯教育ということもあり、29名の栄養士の皆さまに参加いただくことが出来ました。



根拠に基づいた栄養管理（EBM）とは入手可能な範囲で最も信頼できる根拠（＝質の高いエビデンス）を把握した上で、理にかなった栄養の指導を円滑に行うための一連の行動指針のことです。

EBM に準拠して作成されたものが食事摂取基準やガイドラインになります。

私たち栄養士は日々の業務で、最新の診療ガイドラインや食事摂取基準を取りそろえ、業務に反映できるように理解することが必要です。

診療ガイドラインには、様々な種類のものがありますが、各ガイドライン内で推奨度が表記されています。推奨度の分類をよく理解してガイドラインを読み解くことが必要です。また、ガイドラインは最新のものに改定されているため、新しい情報を知ることも必要になってきます。



皆さんと一緒に学びたい。

東北医科薬科大学病院 早坂 朋恵氏

日本人の食事摂取基準も2010から2015に改定されました。中でもナトリウム（塩分）の目標量が目立って変更されています。栄養士として最も基本となるガイドラインですので、しっかり理解して業務に反映しましょう。

（文責 曳地 望）

平成28年度 宮城県栄養士会 生涯教育 研修会報告

講義 必須1単位 4 4-2 演習 必須1単位 4 4-4

栄養スクリーニング・栄養診断

講師 東北大学病院 栄養管理室 室長 岡本 智子氏

栄養スクリーニング・栄養診断ということで、東北大学病院 栄養管理室 室長 岡本 智子氏より講義と演習をしていただきました。

医療現場で活躍されている岡本氏の講義・演習に29名の栄養士の皆さまが参加されました。



ご自身の経験も交え講義いただきました
東北大学病院 岡本智子氏

まず、栄養スクリーニングとは出来るだけ早く「栄養学的リスク」のある対象者を抽出することで、イメージとしては、粗い目でふるいにかけるような状況です。

栄養スクリーニングツールは何種類か挙げられますが、必要な項目は「体重」「食物摂取」「消化器症状」などです。他にも侵襲・身体活動量・脱水・浮腫が挙げられます。

職場で上手く活用できる栄養スクリーニングツールを使用することが対象者を的確に抽出

出来る方法ではないでしょうか。

午後は、栄養ケアプロセスの栄養診断で使用できる70の国際標準化された栄養診断コードを用いて「PES 報告」と呼ばれる文章表現を活用する演習を行いました。

PES 報告のポイントは「①症状/徴候 (S) の根拠に基づき、②要因 (E) が原因となった、③問題や栄養診断の表示 (P) と診断できる」のように簡潔な一文で記載することです。



3つの症例を演習し、参加者はいくつかのグループに分かれて栄養診断コードのどれに当てはまるかを検討し発表を行いました。

PES 報告を SOAP に反映させる方法も含めた演習となり、明日からの業務に生かせる研修となったという声も聞かれました。

(文責 曳地 望)